

京都府生協連ニュース

＜第54回通常総会特集＞

2007年8月5日・No.67(通算133号)
京都府生活協同組合連合会
京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階
TEL. 075-251-1551
FAX. 075-251-1555

第54回通常総会開催

～全議案を可決・承認、総会アピールを採択～



6月12日(火)、池坊学園洗心館で開催しました。

＜お二人の来賓からご祝辞をいただきました＞



開会のあいさつをのべる
小林智子会長理事



京都府山田啓二知事代理
京都府商工部次長 田中準一さん



京都労働者福祉協議会会長
木戸美一さん

京都府生協連第54回通常総会報告

6月12日(火)午後1時30分より、池坊学園洗心館で、「京都府生活協同組合連合会 第54回通常総会」を開催しました。

今総会の代議員総数は41人で、当日の代議員出席は38人(うち委任出席3)でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、80人の参加となりました。

小林智子会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓の京都府商工部次長 田中準一さん(京都府山田啓二知事代理)、京都労働者福祉協議会会長 木戸美一さんから、ご祝辞をいただきました。

オブザーバーとして、日本生協連関西地連事務局元山鉄朗さんにご参加いただきました。京都府議会議長、京都市長、国会議員、各関係団体、各生協などからいただいた77通の祝電・メッセージをご紹介しました。

小峰耕二専務理事が、第1～5号までの議案を提案し、新堀悟史監事が監査報告をおこないました。

14人の代議員・オブザーバー・理事から発言がありました。

さいごに、総会アピール「生協のよせられている社会的な期待にこたえ、協同の輪をひろげていきましょう」を採択しました。



議長の渡辺明子さん
(京都生活協同組合)



議案の提案をする小峰耕二専務理事



監査報告をする
新堀悟史監事

＜祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた＞ (順不同・敬称略)

- | | | | |
|------------|---------|------------------|--------|
| 自由民主党衆議院議員 | 山本 ともひろ | 日本共産党衆議院議員 | 穀田 恵二 |
| 自由民主党衆議院議員 | 中川 泰宏 | 日本共産党参議院議員 | 井上 さとし |
| 自由民主党衆議院議員 | いざわ 京子 | 日本共産党参議院議員 | 市田 忠義 |
| 民主党衆議院議員 | 前原 誠司 | 京都府議会議長 | 家元 丈夫 |
| 民主党衆議院議員 | 山井 和則 | 京都市長 | 榎本 頼兼 |
| 民主党衆議院議員 | 泉 ケンタ | 京都府社会福祉協議会会長 | 立石 義雄 |
| 民主党衆議院議員 | 北神 けいろう | 京都市社会福祉協議会会長職務代理 | 原 健 |
| 民主党参議院議員 | 松井 孝治 | 京都商工会議所会頭 | 立石 義雄 |
| | | J A 京都中央会会長 | 中川 泰宏 |

■全議案が可決・承認されました

提案された6つの議案について、1～5号の各議案は可決・承認されました。6号議案 役員補充選挙については、立候補者数が定数内であったため、役員選挙管理委員会の波多野委員長より、定款と役員選挙規約にもとづき全員を無投票当選とする旨が報告されました。

議 案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2006年度 活動報告・決算報告承認の件	37	0	0	37
第2号議案 2006年度 剰余金処分案承認の件	37	0	0	37
第3号議案 2007年度 活動方針・活動計画および予算決定の件	37	0	0	37
第4号議案 2007年度 役員報酬限度額決定の件	37	0	0	37
第5号議案 議案決議効力発生の件	37	0	0	37
第6号議案 役員補充選挙				

※出席代議員の合計38人（本人出席35 委任出席3）うち議長1人は採決に参加せず。

【新任役員と退任されたみなさん】

今回、新しく理事になられたのは次の2人の方です。小川 正さん、鎌部千津子さんが今回、退任されました。



理事 小山 敏子さん
(京都府庁生協総括常任理事)

理事 笠谷 敏子さん
(京都生活協同組合常任理事)



小川 正さん



鎌部 千津子さん
(京都生協常任理事)

【京都府生協連2007年度役員体制】(8月7日現在)

<会長理事>小林 智子 (京都生協理事長)
 <副会長理事>平 信行 (京都大学生協専務理事)
 <専務理事>小峰 耕二 (京都生協常務理事)
 <常任理事>小山 敏子 (京都府庁生協総括常任理事)
 佐藤 京子 (やましろ健康医療生協理事長)
 沼澤 明夫 (大学生協京都事業連合専務理事)

高田 艶子 (員外)
 田中 弘 (京都医療生協専務理事)
 中本 式子 (生協エル・コープ理事長)
 羽賀 省二 (京都教育大学生協専務理事)
 廣瀬 佳代 (員外)
 松浦 順三 (京都工芸繊維大学生協専務理事)
 三宅 智巳 (同志社生協専務理事)

< 理 事 >栗飯原 利弘 (龍谷大学生協専務理事)
 大塚 正文 (京都橘学園生協専務理事)
 小野 留美子 (乙訓医療生協専務理事)
 笠谷 敏子 (京都生協常任理事)
 金谷 薫 (全京都勤労者共済生協専務理事)
 酒井 克彦 (立命館生協専務理事・
 池坊学園生協専務理事)
 吹田 知久 (京都府医大・京都府大生協専務理事)

< 監 事 >島田 浩 (京都府庁生協監事)
 新堀 悟史 (乙訓医療生協理事)
 佃 政治 (京都大学生協常務理事)

■ 14人の代議員・理事・オブザーバーから発言がありました

当日は、14人の代議員・理事・オブザーバーから、食の安全・くらしの安心、大学生協の活動、医療制度改革と経営への影響、平和の取り組みなどについて活発な発言がありました。これらの発言をふまえ、小峰専務理事は「この1年の多様な活動について報告をいただいた。これらを連合会の活動のなかにしっかりと受けとめさせていただいて、みなさんがたといっしょに活動をすすめてまいりたい」とのまとめをおこないました。

【総会発言の要旨】

1 同志社生協 疋田利政 代議員

「設立50周年を迎えた同志社生協の取り組みについて」



同志社生協はことし設立50周年、来年で日本の生協誕生110年を迎えるため、歴史編纂の研究会をすすめています。

昨年、同志社女子大では、学生と職員が協力してオリジナルチョコレートを開発しました。同志社大では酒粕を使った「酒かすいっつ」を伏見の酒造業者と協力して作りました。マスコミにも取り上げられ、なかでも「ドーナツシュ

(酒)」はよく売れています。今年の総代会では、生協もこの取り組みをサポートしよう、同志社大そのもののブランド力の向上に貢献しようと決めました。

新しい取り組みとして、農業体験をとおしての「畑の見えるお昼ご飯プロジェクト」をすすめています。また、機関紙の「京の老舗探訪」で、秋に一保堂茶舗と一緒に、お茶を飲む会を企画しました。これからは学生がイキイキ活動でき、大学に生協があつてよかつたと思われる取り組みをすすめていきます。



2. 京都工芸繊維大学生協 佐藤真輔 代議員

「生協店舗営業延長の取り組みについて」



京都工芸繊維大学には昼間コースと夜間主コースの学生がいます。夜間主コースは16～21時までの授業となります。学生全体の6分の1が夜間主コースです。

生協店舗は遅いところでも20時に閉店してしまい、「大学指定のレポート用紙が買えない」「おながすすいて、食堂が開いて

いれば……」など、切実な声が出ていました。

このような願いをかなえるために店舗閉店時間延長の計画を立てました。昨年は前期・後期試験、学祭の期間の年3回実施しました。情報宣伝の効果により、認知度は上昇していきました。営業時間延長にともない、利用もふえました。

こんごもよりいっそう情宣活動を強化し、組合員のニーズにそつた取り組みをすすめていきたいと思ひます。



3. 京滋・奈良地域センター 岡本拓郎 (オブザーバー)

「大学生協の平和の取り組みについて」



京都・滋賀・奈良には20の大学生協があり、生協活動の拠点である地域センターで学生事務局をしています。平和活動推進委員会をつくり、平和に関心ある人をつのつて、月1回委員会をもつて活動をすすめています。全国企画として「ピースナウ in ヒロシマ、ナガサキ、オキナワ」に取り組みます。また京都では「ピー

スナウ in 舞鶴 平和ツアー」を企画します。

先月は、イラク戦争をテーマにした映画『リトルバード』の上映会をしました。7月には国際平和ミュージアム見学会を計画しています。

学生にとって「戦争」「核兵器」は身近なものではなく、平和とは「笑顔」「いじめがないこと」などとイメージします。社会に目を向けるきっかけになるような活動をひろげていきたいと思ひています。

4. 京都府立医科大学・府立大学生協 石角敏明 代議員

「学長賞受賞につながる活動について」



昨年、生協学生委員会が第2回「学長賞」を受賞しました。10年以上がらんばって大学に貢献したことが認められたものです。受賞につながった2つの主な活動を紹介します。

ひとつは新学期サポート活動です。毎年、入学式前に新入生歓迎ハイキングを企画しています。機関紙での簡単な案内だけでしたが、新入生の60%にあたる260人も参加しました。先輩も100人以上がグルー

プリーダーとして参加しました。生協を信頼いただいていると実感しました。

もうひとつは、オープンキャンパスの取り組みです。4～5年前、学生による相談活動が評価され、オープンキャンパス参加のための宿泊斡旋も大学のホームページにリンクさせてもらっています。08年度から大学は独立法人になります。大学から信頼され、受験生から頼りにされ、組合員から喜ばれる生協として、ありつづけたいと思っています。



5. 生活協同組合 エル・コープ 佐々木郁子 代議員

「食と農・食育の取り組みについて」



エル・コープでは、食育、食と農について取り組みをすすめています。

先日も有機農業の勉強会をしました。山間部では半分以上が農業をやめているのに、そこに若い夫婦がやってきて、農業の行き方を模索しているというお話に農業の可能性があると思いま

した。またエル・コープでは無農薬の野菜BOXを扱っています。ときには虫が付いていることもあり、台所でギョッとするし、子どもたちも食べません。けれど、畑で作物に虫が付いていても子どもは驚きません。生き物といっしょに生きることが農業のなかでは自然なのです。そういう場を生協のなかでつくっていききたいし、そういう農業を残していきたい。

それが「生きる」ことにつながると思います。



6. 京都生活協同組合 平野裕子 代議員

「特徴ある商品づくりと組合員参加の取り組みについて」



コープきんき事業連合がスタートして4年たち、京都にいながらにして7つの生協の特徴ある商品が利用できるようになりました。「お手頃価格がうれしい」「おいしい」「手軽で便利」などの声を聞くことがふえました。

07年度は、より多くの組合員が参加して「懇談商品学

習会」を開催します。

組合員活動の分野では新しい活動スタイル「おしゃべりパーティ」を実施していきます。組合員活動と生協事業のつながりを知ってもらうには、時間がかかります。

商品を真ん中にして、気軽にしゃべってもらい、商品の感想、メッセージなどを、報告書に書いてもらう。気軽に参加でき、生協加入の間口を広め、組合員参加の裾野を広げる取り組みをすすめます。



7. 乙訓医療生協 米重恭子 代議員

「ひとりぼっちのお年寄りをなくすために」



「一人ぼっちの高齢者をなくそう」「地域の健康の発信になろう」とできたのが、地域のセンター「棚ぶどう」です。昨年6月にぶどう棚があり空き家になっていた民家をたまたま借りることができました。

ここは、診療所から約30キロメートルの所にあります。月1回の「おしゃべり会」が8年つづいてきました。空

き缶を利用してイスを作ってくれる人、バザー用にただでケーキを焼いてくれる人など地域の強力な協力がありました。連れ合いと死に別れ、1年半引きこもっていた方が、食事会に来てくれて、イキイキと変わっていく姿を見たり。スタッフ自身も頼りにしてもらえて励みになったり。ただ男性の参加が少ないのが気がかりです。おしゃべり会や食事会にだれでも気軽に参加してもらって、元気になってもらえたらいいなと思っています。

8. 京都府庁生協 小山敏子 代議員 「公務員賠償保険制度の取り組みについて」



世の中、訴訟が大きな問題となっています。京都府庁内でも職員の仕事を通じての訴訟問題が発生しました。そこで、組合員ニーズにこたえ、昨年11月から生協の新しい事業として公務員賠償責任保障の取

り扱いを開始しました。11月の1カ月間で347人の申し込みがありました。さらに今年4月に人事異動がありましたので、5月に1カ月間キャンペーンをおこないました。149人の申し込みがありました。

こんごも組合員ニーズにあった新しい事業を開拓していきたいと考えています。



9. 立命館生協 武部礼子 代議員 「朝食バイキング・アスリート食の取り組みについて」



学生の半分は朝食を食べていないといわれます。そこで、大学生協として「健康で勉学に励む学生支援」として朝食バイキングを始めました。朝8時から10時まで、サラダバーとおぼんざい、ごはん盛り放題で241円です。利用がいままでの3倍になり、一人ぐらしの朝食摂取率が上がりました。

もうひとつの取り組みは、学生アスリート食の提供です。スポーツをしている学生は、一般学生より多くのエネルギーと栄養を必要とします。そこで、たとえばアメリカンフットボールの選手には、1食850円で2000~2500キロカロリーの食事を提供しています。トップレベルのアスリートが育っています。こんごは自己管理能力を高め、自立した食生活ができるサポートをしたいと考えています。



10. やましろ健康医療生協 上坂光彦 代議員 「医療、介護、社会保障をめぐるの取り組み」



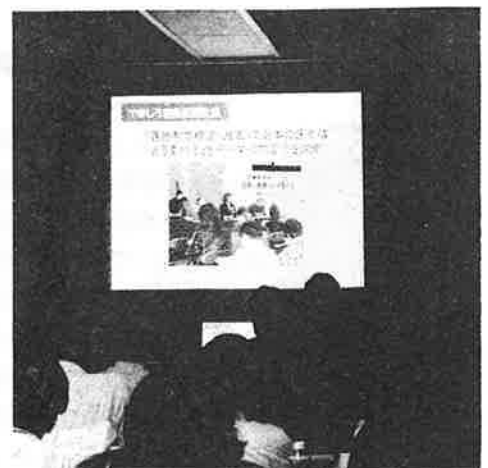
この間の医療制度・介護制度改悪で、なかでも高齢者・障害者は深刻な状況におかれています。国民年金受給者の6割が5万円以下です。保険証を取り上げられて受診できずに21人が亡くなったそうです。保

険料を払いたくても高く払えない世帯が全国で470万世帯、短期保険証200万世帯といわれています。

去年10月からは、所得ある人は窓口負担が3割にふえ、施設入所の部屋代・食事代（ホテル代ともいう）が自己負担になりました。

たとえば、67歳の女性の場合。糖尿病になって20年、7年前から自宅で注射をしています。1割から3割負担になって、インシュリン注射だけで1月3480円から1万円をこえる負担となりました。また、介護保険の改悪で、要介護・要支援の方が電動ベッドや車イスが使えなくなった、施設入所負担が6万円から10万円にふえて退所した事例もあります。

やましろ健康医療生協では、市議会に請願したり、駅頭宣伝や学習会を開催してきました。来年の4月には70~74歳の窓口負担が1割から2割へ、所得ある75歳以上の後期高齢者負担が3割になります。地域に出て行き、他団体と力をあわせて取り組みをすすめます。みなさんには署名の協力をお願いしたい。



11. 京都医療生協 あざみ祥子 代議員 「制度激変の中での経営対策と対応」



京都医療生協は、眼科単体の生協で、4つの診療所をもっています。診療報酬の大幅引き下げ、とりわけコンタクトレンズは2割の引き下げで収入が減るなか、組合員・役職員の協力で、黒字を達成できました。対策としては、医療サービスを低下させることはできないので、経費の聖域なき見直しをやりました。役員報酬の20%カット、

職員手当のカット、組合員活動・サークル活動の見直し。「百まで生きよう会」も独立採算制にし、活動室を閉鎖。専従職員の配置もなくなりました。一方で、無料眼科検診、手術後の無料送迎、インターネットでの申し込みなど、サービスのいっそうの充実につとめました。制度問題は診療所を直撃し、組合員を直撃します。まず受診控えの人がいないか、点検活動をすすめ、制度改悪の勉強もしながら、がんばっていきたいと思います。



12. 京都生協 長谷川典子 代議員 「きょうされんとの共同事業の取り組みについて」



京都生協はきょうされん京都支部と地域・組合員活動・事業連携活動で協力・共同の取り組みをしています。「きょうされん」とは共同作業所全国連絡会のことで、障害者施設などが加盟する全国組織です。

「応益負担」という大きな問題をふくんだ障害者自立支援法が昨年4月より施行され、10

月より完全実施されました。今回の30次国会請願署名・募金運動は障害者自立支援法の見直しをもとめて取り組んできました。京都生協では27ある行政区委員会すべてで学習会が開催されました。署名・募金とも昨年実績を大きく上まわりました。

07年度は地域での交流がもっと広がるよう、作業所の自主製品の事業連携がもう一歩すすむよう、がんばって取り組んでいきたいと思っています。



13. 京都府生協連 佐藤京子 常任理事（やましる健康医療生協理事長） 「京都府生協連の平和の取り組みについて」



昨年、京都府生協連で、平和・憲法リーフレットを作成しました。作成委員会では、若い人たちに手にとって読んでもらえるものをつくりたい、斬新な形状で、内容も見えてわかるものに、クイズものせたいと話合いをかさね、半年かけてやっと完成しました。もし

憲法が変わったら密接に関係するいまの若い人たちに深く考えていただきたいと思いました。そこで、なぜ生協が憲法問題をとりあげるのか、その背景と生協の原点（スタートライン）、戦争と憲法九条の関係、憲法と若い人の未来をこのなかに盛り込みました。おかげで評判がよく、全国の生協からも参考にしたいと好評です。グループの学習会のテキストなどにも活用してください。



14. 京都生協 山本祐司 代議員 「京都生協の事業執行状況について」



食の安心・安全の要望が高まるなか、個別配達の利用がふえています。若い世代では1軒1軒配達してほしいという要望がつよく、農村・山間部では個配なしにはくらしにくい事態もうまれ、全世代で個配がふえています。共済事業では給付の掘り起こしに取り組んでいます。昨年1年間で新規加入が2万件ありました。

葬祭事業もオリジナル企画をふくめて明細をはっきりさせ、葬儀利用は593件になりました。

福祉事業では、左京区に5番目のホームヘルプサービスの事務所ができ、デイサービスも開始しました。

店舗事業は新規の出店を予定しています。また、赤字店舗は店舗健全化ルールに従い、閉店していきます。

こんご、よりいっそう健全経営をはかっていきたいと考えています。

■総会アピールが採択されました

総会アピールは、小野留美子理事が提案し、
全体で確認しました。



総会アピールを提案する
小野留美子理事

京都府生活協同組合連合会第54回通常総会アピール

生協によせられている社会的な期待にこたえ、協同の輪をひろげていきましょう

本日、京都府生活協同組合連合会は第54回総会を開催し、京都における生協への加入組合員数が65万8000人を数え、地域・学園・職域・医療・共済などの多くの分野で、旺盛な事業と活動をすすめていることを確認しました。

わたしたちは、この1年、組合員の「声」にもとづく組織運営をすすめながら、事業・経営構造の改革に取り組んできました。また、食の安全・くらしの安心、平和、環境、福祉、防災などの共通する課題をすすめてきました。消費者権利の拡充にむけては、6月7日から消費者団体訴訟制度がスタートし、大きな期待がよせられています。

しかし、日本経済は史上最大の景気持続といわれながら、くらしへの波及効果はうすく、階層間、業種間、地域間で格差が拡大しています。悪徳商法による消費者被害はあとをたたく、企業の偽装や隠ぺい事件、子どもや肉親をめぐる痛ましい事件があいつぐなど、「社会荒廃」現象が深刻さをましています。医療・介護保険・年金などの制度改悪と実質増税による影響が、国民の生活や健康に対する不安を大きくしています。

今年、日本国憲法が施行されて60年の節目にあたりますが、憲法を改定して、「戦争をしない国」から「戦争をする国」へ、日本の国のあり方をおおもとから変えようとする動きがいつそう強まっています。戦後の生協活動が、「平和とよりよい生活のために」を合言葉に新しいスタートをきったことの意義をしっかりと確かめあうことが、なにより大切になっています。

生協はこんにち、全国で3600万人をこえる国民の自発的な組織として、大きく成長発展しています。60年ぶりにおこなわれた法改正では、生協がはたしている社会的役割を高く評価し、その役割にふさわしい生協のガバナンス(組織運営)の確立をもとめています。京都において生協運動をになうわたしたちは、今回の法改正の意義と内容をしっかりと受け止め、社会的な信頼と期待にこたえていく必要があります。組合員のねがいにこたえる事業をすすめるとともに、消費者重視の新しい社会経済システムづくり、少子高齢化のもとでの地域コミュニティづくりにいつそう貢献するため、地域・学園・職域・医療・共済などの分野で、協同の輪をさらに大きくひろげていきましょう。また、地域社会の一員として、さまざまな団体・個人と手をつなぎ、連帯の輪をひろげていきましょう。

2007年6月12日
京都府生活協同組合連合会